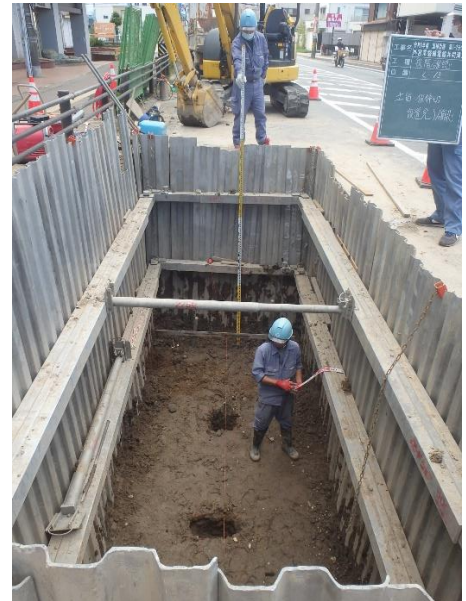


# なかたち い せき 中館遺跡

発掘調査期間：令和4年5月から随時

所在地：伊勢市本町ほか（※工事現場のため見学はできません）



調査地（上が北、三重県市町総合事務組合所管の三重県共有デジタル地図  
を利用しM-GISにて作成）

調査風景

## 戦国～江戸時代の外宮と山田

伊勢神宮外宮の門前町である山田は、室町時代から江戸時代にかけて経済的に大きく発展し、江戸時代には多くの参宮客で賑わいました。当時の様子は、文献や江戸時代の絵図によって知ることができますが、考古学的な調査は始まったばかりです。

今回の調査は、電線などの埋め込み工事と同時に行う発掘調査（工事立会調査）です。周囲の土砂が崩れて事故が起こらないよう、矢板（鋼鉄板）を打ち込みながら調査します。

現在の地表から約2m下で、戦国時代（16世紀）の土器・陶磁器が大量に出土しました。外宮の周囲には湿地や川があり、この一部を戦国時代から江戸時代初め（16～17世紀）に埋め立てて、町屋や道路を整備していったようです。



上層（整地層）



下層（湿地や川の堆積か）

## 戦国時代（16世紀）の土器・陶磁器

注目されるのは、大量に出土した土師器<sup>はじき</sup>の皿・鍋です。付近の町屋などで用いられ、湿地や川に捨てられたものでしょう。この他、瀬戸・美濃窯<sup>せとみのよう</sup>（愛知県・岐阜県）や常滑窯<sup>とこなめよう</sup>（愛知県）の陶器、中国から輸入された磁器<sup>じき</sup>（青磁<sup>せいじ</sup>・白磁<sup>はくじ</sup>・染付<sup>ぞめつけ</sup>）があります。今のところ、一般の集落に比べて、輸入磁器が非常に多い印象を受けます。

これらは、戦国時代の山田の経済活動を知る上で貴重な資料といえます。



土師器の皿・鍋



輸入磁器（青磁・白磁・染付）



瀬戸美濃、常滑産陶器

<問い合わせ先> 〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 三重県埋蔵文化財センター調査研究1課  
担当者：櫻井・原田 電話：0596-52-1732 FAX：0596-52-7035 E-mail：maibun@pref.mie.jp